

世界最大 海中コンクリ試験開始

海洋機構、八戸工大、不動テトラ

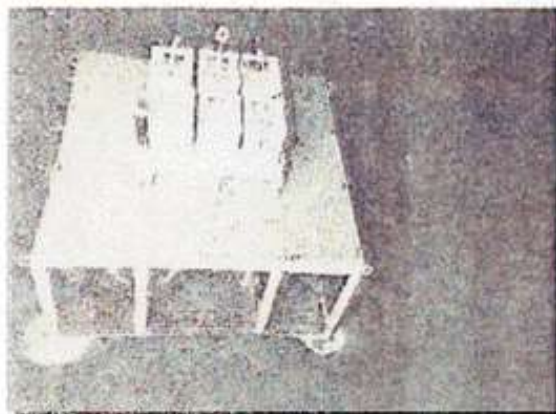
深海環境で経年劣化調査

海洋研究開発機構は、八戸工業大学と不動テトラとともに深海域へのコンクリート構造物の設置ニースを踏まえ、「世界最大深度における海中コンクリート試験」を開始した。

さらには海水の化学組成に起因するカルシウムの溶脱によって経年的な劣化が急速に進むことが懸念される。深海域にコンクリート試料を運搬するには高度な技術が必要とされる一方で、3000

劣化速度を予想するための実測データや数理モデルが全く存在しないのが現状。同試験では、深海曳航調査システム「コディープ・トウ」を用いて水深3515

試体を設置した。深海底に曝露させたコンクリート供試体は定期的回収され、力学試験や構造・化



フラットホーム上で曝露が開学組成分析を実施されたコンクリート供試体し、深海環境におけるコンクリートの経年劣化度合いを調査する。(海洋研究開発機構提供)

観測機器の設置を安全に施工するために必須な情報として、有効活用されることが期待されている。

経年的な化学・物理変化を実験的に明らかにすることで、今後の海洋開発の指標となる基礎データの蓄積を図る。最終的に得られた知見は、深海底におけるインフラ構造物の建設や